

芭蕉元禄事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十八年五月度 入選句（投稿総数千九百三十七句・一般投句数六百七十句）

選者 田中 青志

特選

流れ着く港はあらず花筏 大垣市 多和田 一徳

散り来る花片が思い思いに固まつて流れるを花筏とはよきネーミングよき季語です。花筏を舟に見立てれば目的地があるはずです。さればこの花筏に目指す港はあるのかと作者は自問しますが、やがては散り散りになつて果てて行くしかないものと自覚します。そんな果敢無さは人の世にも通ずるものがあるように思えて来ました。

ふらこころを漕ぐ度風となる少女 大垣市 名和 よちゑ

ふらこころはふらんこ。ふらんこは子たちの成長に係つてとても楽しい遊具です。風のように漕げるまでにはそれなりの修練が必要で初めは手を添えて揺らしてもらつてから始まつたはずです。ふらんこの醍醐味は風と同化して漕げること。この少女の楽しい風情を漕ぐたび風となるは確かな描写・表現であると思います。

高殿に舞ふ蛇頭や里祭 大垣市 久保田 悟義

今各地で伝統文化を遺すための努力が盛んに行なわれるようになりました。この高殿に舞う蛇踊りもきつと貴重な伝統文化なのだと思います。里の人たちの熱意と努力で末永く受け継がれて行くことを祈ります。

秀逸

美しき雨の散華となりて花 福岡県福岡市 江藤 豊子

川風に跳ねて三百鯉のぼり 大垣市 三輪 千芽

入園式皆の上着の大きかり 大垣市 谷 睦月

長閑さに寝てしまひけり腕の中 不破郡垂井町 児玉 信子

白椿姿正しく落ちにけり 愛知県名古屋市 舘野 茂子

影もまた春の長さになつてをり 福井県福井市 三ツ山 ひろし

指切りの約束忘れ葱坊主 大垣市 鶴田 信子

やわらかき雨をはじきて牡丹かな 大垣市 山田 千歌子

藤房を手にして仰ぐ空の青 大垣市 米川 弘子

黒塗りの川燈台に落花かな 大垣市 澤井 国造

入選

振り下す 歟 春光を裏返す	福岡県福岡市	江藤 豊子
白山にむかひ一礼 田水張る	大垣市	大西 誠一
葉桜やすつくと燈台 裾広ろげ	徳島県徳島市	安宅 智子
風に散り鳥に散らさる 里桜	大垣市	伊藤 美翠
若葉雨 シャンソン 流る茶房かな	大垣市	杉本 富子
滝つぼのそよ風 受ける若葉かな	大垣市	米山 佳代子
病院を包む 紅白花 水木	揖斐郡池田町	五十川 直靖
花筏 乗りて行きたし 伊勢の海	大垣市	北島 暁子
マネキンの 軽き服装 夏来る	大垣市	末守 節子
逆上がり 春の夕やけ 回しをり	安八郡輪之内町	野村 照子

入選

一村をつらぬく 川や麦の秋	大垣市	森川 きよ子
呼べば答へて茶摘み 女の手を振りぬ	京都府京都市	八田 弥須子
餅負ひて踏み出す 一步緑さす	揖斐郡揖斐川町	栗野 みねお
大垣に嫁いで 古いぬ花は葉に	大垣市	棚橋 昭子
町内に男児は 一人鯉のぼり	愛知県名古屋市	岩田 遊泉
坂道を登る 桜の景となり	滋賀県甲賀市	奥村 僚一
花筏川の 余白を埋め尽くす	瑞穂市	谷 牛歩
春光やひととき 赤き大鳥居	岐阜市	辻 雅風
行く道の 先の先まで 陽炎へり	兵庫県神戸市	岸下 庄二
目に涼し列の できたる水 饅頭	三重県桑名市	田口 綾子

選者吟

花屑や人の名も すぐ忘れられ

青 志